

## AI化業務検討促進プログラムのご提案

システム企画研修株式会社

## 当ご提案の背景

昨今は働き方改革の残業規制強化等により、研修時間を確保することが極めて困難になっております。



他方、社員の能力強化の必要性は、ビジネス環境の変化によりますます大きくなっているのです。



この窮状を何とか打開しないと、どこの会社も社員もじり貧で、いずれ中国や米国の企業に淘汰されてしまいます。

- ▶ SZK（少しずつ刻む）シリーズは 研修時間を細切れにすることによって密度の濃い研修を業務時間の中にもぐりこませようとするものでございます。



## AI化業務検討促進プログラムとは

- ❖ これまでのAI開発案件は「P○Cどまり」が多いのはなぜでしょうか。
  - その最大の原因は、AI化のニーズを感じたユーザが、いきなりAIの技術しか知らない外部のAI専門家に丸投げで開発を依頼するからです。
  - AI専門家は業務のニーズが分かりませんから、使い物になるものが作れないのです。
- ❖ そこで、社内の状況が分かっている、システム開発の経験を積んできている方がユーザとAI専門家の間をつなげばよいのです。
  - それがAIコーディネータです。  
AIコーディネータの位置づけ・役割等につきましては「AIC準備プログラムのご提案」でご説明させていただきました。
  - AIコーディネータは、AI技術に精通している必要はありません。
  - 業務が分かり、「AIで何ができるのか、AIの仕掛けがどんなものか」が分かっているればよいのです。
  - そのAIコーディネータに実務的な武器が必要です。その武器を二つご用意しました。

社内業務をAI化で強化する場合の手法

当ご提案です。

AI化製品を事業化する場合の手法

「AI化ビジネス企画立案プログラム」

- 従来のシステム／IT専門家の皆様、頑張りましょう！！

# AI化業務検討促進プログラムのご提案

## 1. 当プログラムの「目的・ねらい」(Why)

### (1) 当プログラムの実施目的

- 1) AI 案件のコーディネーションをしようとする方(AIC)が実際の開発案件でAI化の検討をリードできる手法を学んでいただきます。

その手法の骨子は以下の3点です(注)

AI化業務・開発目標定義(「価値目標記述書」)  
AI化業務・関連業務・部門定義  
AI化業務・必要データ定義

- 2) AI化のヒントとなる「AI事例解析集」(100事例収録)を入手いただきます。
- 3) AI化開発案件のPOC企画書の作成実践をしていただきます。

### (2) 当プログラムのねらい

- 1) 実際のAI化案件をリードいただきます。
- 2) 従来のシステム要員がAI案件でご活躍いただくことができ、AI化でも会社に貢献いただけるようになっていただきます。
- 3) 現場、貴部門、社員の「三方良し」を実現いただきます。

注：この3点セット自体は、従来のシステム担当にとっては、熟知のものです。

## 2. 当プログラムの内容(What)

- ❖ 次頁をご参照ください。
- ❖ やはり、AI技術をもう少し学びたいという方には、その研修をご紹介します。

## 3. 当プログラムのご対象者(Where)

- ❖ AIC準備プログラム受講済みまたはそれ相当の知識のある方を前提とします。
- ❖ 職種・経験は不問です。

## 4. 当プログラムの実施方法(How)

- 1) 1回2時間で実施します。時間帯は自由に設定いただきます。
- 2) 御社内で実施いたします。場所をご準備ください。
- 3) 第3回と第4回の間の実践の際には、研修時間の不足を補うため添削指導をいたします。
- 4) 講師に対する質問・相談も随時受け付けます。



## 5. 当プログラムの実施時期・期間(When)

- ❖ 第1回～第3回の間隔は2週間以内としてください。
- ❖ 第3回と第4回の間隔は2か月を標準とします。
- ❖ 講師側と日程調整してください。

## 6. 当プログラムの担当講師(Who)

- ❖ 当面は上野則男が担当します。

## 7. 当プログラムの実施料金(How Much)

- ❖ 研修料金は4回込みで60万円です(消費税別)。
- ❖ 添削指導および研修テキスト「AI事例解析集」(既入手の場合は「デジタル化事例集」(230事例))代込みです。
- ❖ 第4回が人数の関係で2回になっても同一料金です。

お問い合わせ

システム企画研修株式会社

電話：080-1169-3667

mind-pc@newspt.co.jp

## AI化業務検討促進プログラムのご提案

## 2. 当プログラムの内容 (What)

- ❖ 御社内での1回2時間の研修により実施させていただきます。

## 第1回 AI化業務 開発目標定義

- ❖ 他社の事例等も参考にしてAI化業務の当てができましたら、AI化の具体的な検討に入ります。
- ❖ その第1歩は、何を目標にして開発するのかの確認です。
- ❖ ここで設定する開発目標が、その後の検討の「憲法」となります。
- ❖ その開発目標は、目標設定のワークシートとして定評のある「価値目標記述書」を使用して、誰にとってどういう良いことを期待するのかを記述します。
- ❖ 以下の研修では、ご自分の担当業務の中でAI化を行う業務を想定または仮定していただいて演習を行います。



## 第2回 AI化業務 関連業務・部門定義

- ❖ 次に検討するのは、今回の案件はどの業務を対象にするのかを明らかにし、その業務にはどの部門が関わっているのかを洗い出します。
- ❖ 今後、このAI化業務の関係者として、ご協力いただく必要のある部門を明らかにしておくのです。企画段階から根回しが必要です。
- ❖ 第3回で必要データ定義を行うことを予告し、あらかじめ必要な準備をしていただきます。



## 第3回 AI化業務 必要データ定義

- ❖ AI化の命ともいえるデータの条件を明らかにします。
- ❖ どういうデータ（レコード）をどこから、どうやって入手するのかを明らかにします。
- ❖ 入手の困難性、データの不完全性などを確認します。



## 第4回 実践報告会

- ❖ 現場のニーズまたはご自分の身の回りでAI化したらよいと思われるテーマについて、AI化の**P・O・C企画書の骨子（上記3点セット）**を作成いただきます。
- ❖ 標準2か月をおいて実践結果の発表をしていただきます。
- ❖ ご参加人数により分割実施いたします。



## AI化業務検討促進プログラムのご提案

## 価値目標記述書（サンプル）

価値目標記述書	作成単位 (架空)KOMTRAX	作成年月日	作成者	番号
対象者	実現を期待する価値目標	備考		
機器を利用されるお客様	機器の稼働率がタイムリーに分かる。 機器の品質劣化状態が分かる。 機器のメンテナンス時期が想定できる。 機器の更新時期が想定できる。	品質劣化状態はどうやって把握するか？		
機器を販売される代理店	機器の稼働率がタイムリーに分かる。 機器の品質劣化状態が分かる。 機器のメンテナンス時期が想定できる。 機器の更新時期が想定できる。 その結果、 機器サービスの計画を立てられる。 機器更新・増強の売り込みをすることができる。			
当社営業部門	個々の機器の情報と集約した情報とによって サービス補強策を立案できる。 機器販売計画につなげることができる。			
当社生産部門	機器の品質不備の内容を把握することができる。 品質不備と使用環境との関係を分析できる。 これにより、品質改善計画に結びつけることができる。			
当社事業企画部門	以上の総合的な情報を把握できる。 これを、事業計画に反映させることができる。			